

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

**アザミウマ類、コナジラミ類の施設栽培終了後の
野外への飛び出し防止対策の徹底について**

施設栽培のキュウリ、トマトで発生したアザミウマ類やコナジラミ類は、栽培終了後に施設から飛び出すと、野外で増殖します。その後、秋期に施設に再び侵入し、**次作での本虫及びこれらが媒介するウイルス病の発生**（参考データ）の原因となります。5月の定期調査においてコナジラミ類の発生が平年より多かったことから、**栽培終了時に媒介虫を確実に施設内で死滅させ、本虫及びウイルス病の伝染環を断ち切りましょう。**



キュウリ 退緑黄化病

については、下記事項を参考に対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

1. これまでの発生状況

5月17～23日に実施した定期調査の結果は、以下のとおりであった。

- 1) キュウリにおけるアザミウマ類の発生株率は3.8%（平年17.4%）であり、平年より少なかった。コナジラミ類の発生株率は11.3%（平年3.5%）であり、平年より多かった。
- 2) トマトにおけるコナジラミ類の発生株率は、45.8%（平年15.1%）であり、平年より多かった。

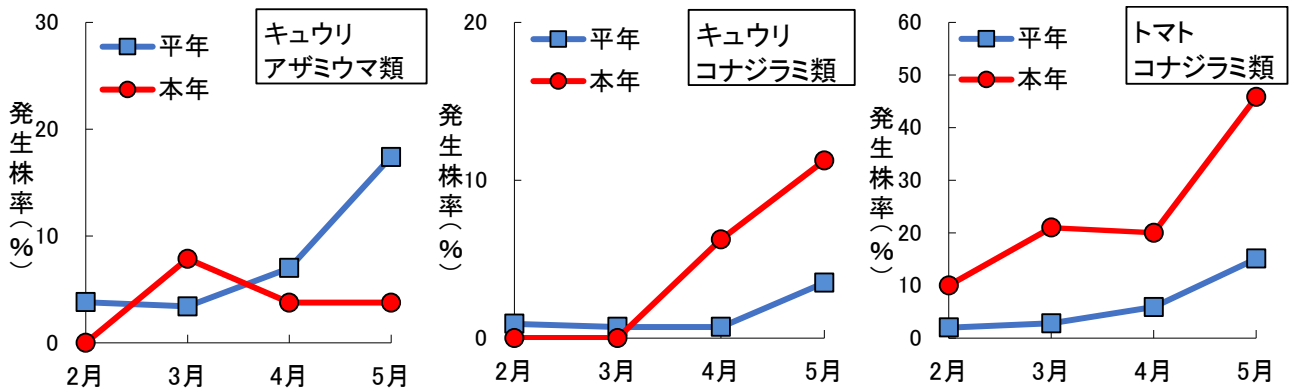


図1 キュウリ、トマトでのアザミウマ類、コナジラミ類の発生推移

【参考データ】

病害虫診断における主な虫媒伝染性ウイルス病の月別診断件数^{注)}

病名（媒介虫名）	8月	9月	10月	11月	12月
キュウリ黄化えそ病 （ミキイロアザミウマ）	13	33	30	14	10
キュウリ退緑黄化病 （タバココナジラミ）	4	11	13	2	0
トマト黄化葉巻病 （タバココナジラミ）	0	13	4	2	1
トマト黄化病 （コナジラミ類）	0	1	1	3	1

注) 平成20年～令和4年の合計件数

- ・ 虫媒ウイルス病の診断件数は9～10月が多い。
- ・ その要因として、野外で越冬したウイルス保毒虫が、秋になってハウス内へ侵入するためと考えられる。

2. 栽培終了後の防除対策

アザミウマ類やコナジラミ類が施設から飛び出すと、野外で増殖し、次作の施設へ侵入する（図2）。これら害虫の確実な死滅と、ウイルス病罹病株を確実に枯死させるために、十分な期間を確保し、施設の密閉処理（蒸し込み）を必ず行う（図3）。

3. 野外の雑草の除去

施設内から飛び出したアザミウマ類やコナジラミ類は、近くの雑草などに寄生して増殖するため、増殖源となる野外の雑草は徹底して除去する。

4. 地域ぐるみの防除活動

アザミウマ類やコナジラミ類は、キュウリ、トマトだけでなく、他の施設野菜類、花き類など多くの作物に寄生するため、地域全体で一体となって飛び出し防止等の対策を行う。



図2 アザミウマ類、コナジラミ類の主な生息場所（イメージ図）

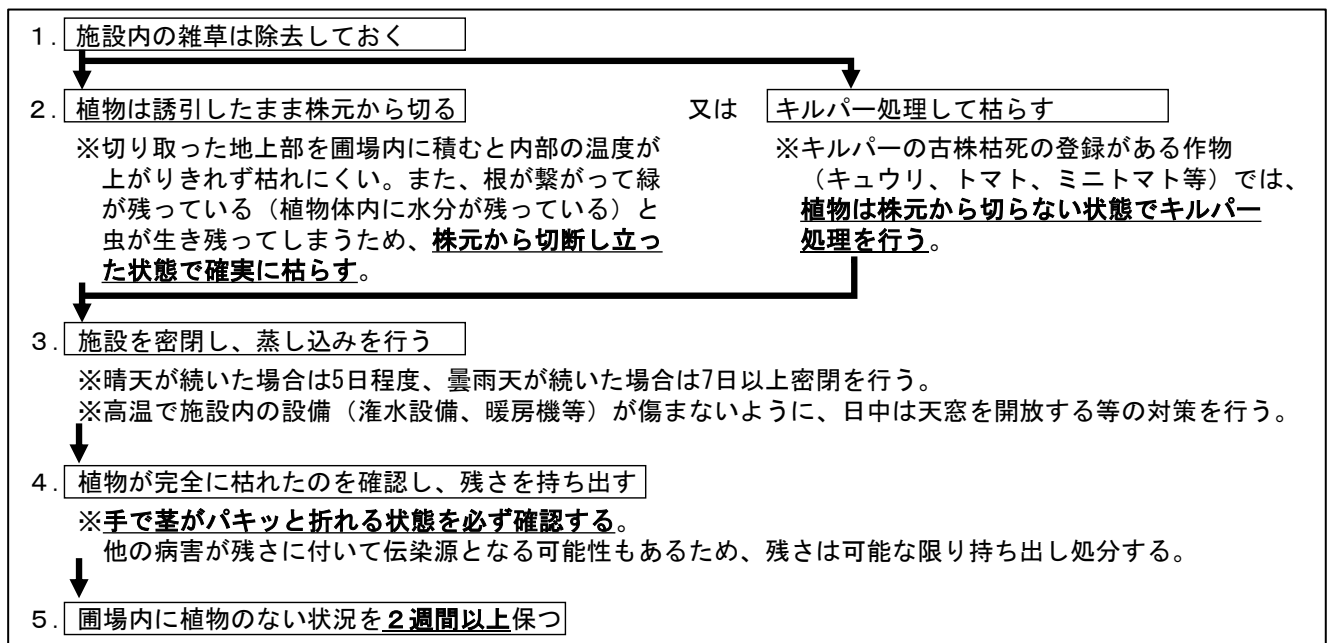


図3 施設の密閉処理（蒸し込み）の手順

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

